まくはり
Baytown News
第 36 号（2000 年 5 月 1 日）発行
幕張ベイタウンニュース
編集局

5/13 ベイタウンまつりの歩みをちょっと振り返りつつ、今年の見どころをご紹介しま

住民の手に受け継がれたベイタウンまつり

住民主導の「ベイタウンまつり」は 1998 年から始まった。「まつりをしませんか」という一枚のポスターがきっかけで集まった有志が手探りで始めた、文字どおり手づくりのまつり。「何をやったらいいか」というコンセプトづくりから警察、消防署、住宅事業者、商店への協力要請などに追われ、立ち上げから 9 ヶ月かかって「ベイタウンまつり」は実現した。蓋を開けてみると、街区対抗の綱引き大会をメインに、バーベキュー広場、フリーマーケット、模擬店などに多くの住民が集まり大成功。今年は 3 回目を迎えようとしている。

「最初は動いてもらう人間を確保するために、かなり強制的に動員をかけたりして、私としては不本意だったところもありますが、仲間と夜を徹して意見を戦わせ、汗を流して作った祭りという満足感はあります」と 2 年連続実行委員長を務めた 17 番街の佐藤惣一さんは当時を振り返る。

特に街区・隣近所のコミュニケーションを深めるために考えた「綱引き大会」への思い入れは強い。佐藤さん自身、綱引きの公式審判の講習を受けて正式なルールを勉強したという。最初の案であったプロムナードでの綱引きは安全上実現しなかったが、一本の綱によって街区の人と人とのつながりが確実に生まれてきている。

現在、5 番街が 2 連覇を果たしているが、「ベイタウンカップ」をわが街区に奪取せんものと、今年も徐々にヒートアップの様相を見せつつある。ちなみに今年からは公園東の街、公園西の街、セントラルパークといった新しい街区も名乗りをあげており、ニューパワーを見せつけようと機会をねらっているというウワサも。

誰でも参加できる、主役になれるまつりに！

今年実行委員長を引き継いだ公園東の街の樺田直樹さんは、住民になる前からネットを通じてベイタウンと関わり、去年のベイタウン祭りにもダンボールを使った遊び場「ダンボパーク」企画を持ち込んで参加していたという、実行委員長にうってつけの人物だ。

「一人の人間がいつまでもやるのではなく、次の人間にバトンタッチしていってはじめて本当に定着したと言えるという佐藤さんの意見に僕も同感だったので、実行委員長も“あっ、いいですよ”っていう感じで引き受けました。それと、ナーンニモ考えていない僕でもできるんだから、誰にでもできると思ってもらいたい気持ちもあります。その気になれば誰でも参加ができる、誰でも主役になれる…知らないこともそれを強みにしてオリジナルの祭りにしてしまえばいいと思うんです。とはいっても、佐藤さんたちが支えてくれる安心感は大きい」

今年はバーベキュー広場に、自分たちのバーベキューセットを持ち込めるフリースペースを設けるほか、住民によるバンドの演奏、平和交通の提供によるサロンカーを使った企画、仮装行列など様々な企画があがっており、これから詰めの段階に入る。またフリーマーケットへの参加申し込みも増えており、実行委員たちを喜ばせている。

「まだベイタウン祭りを経験したことのない新しい街区の人たちが、今回の祭りを見て“自分だったらこうやるのに”とか“こんなことしたいな”とか思ってもらって、次の祭りにどんどん参加してほしい。今から来年の祭りが楽しみです」（佐藤）

「僕は子どもを連れて関わりたいと思っています。子どもに父親がやっていることを見せたいし、子どもからも意見をもらいたい。子連れでいろんなところに出没しますのでヨロシク」（樺田）

「まつり特集」は次ページにつづく。【取材・文 / 佐藤】

ベイタウンまつり 2000　大花火大会

午後 7:00 、バーベキューひろば横、公園付近にて打ち上げ開始 !!

まつり特集

祭りの準備に追われるひまわり会の会合（4/20）を取材させていただきました。

「手作り品のための集まりは、今日で７～８回目ですが、みんな、たくさんの人たちに『ベイタウンまつり』を楽しんで　いただきたくて、家でも寸暇を惜しんで 300 個以上の、手作り品を用意しました。」

どんなものがあるのでしょうか?

「デコパージュ石鹸が 100 個。これは、特殊な石鹸用の糊で、市販の紙ナプキンの綺麗な模様の所をコーティングしたものです。香りのインテリアとしてお楽しみいただけます。」

「今大流行のビーズアクセサリー、子ども用２～300 円から大人用 1500 円までと種類も多く、市販品よりずっとお買い得になっています。アジャスター付きで長さの調節が出来るものもあり、当日は鏡を用意しますので試着していただけます。」

「また、小学校で使っているお道具箱がすっぽり入る、大き目の袋物。学期のはじめなど、荷物の多い時にとても便利です。」

「最後に、環境にやさしいアクリルタワシ。食器が洗いやすいように工夫して、手がすっぽり入るかたちに編みました。いろいろな色のタワシで、お台所が楽しくなりますよ。」

デザイン、配色の違うものがいろいろあって綺麗ですね。

「どれもみな、工夫して作りましたが…特に、アクセサリー用のビーズは、最初は色も数もたくさんあるのですが、作っていくうちに少なくなってきますよね。それからがたいへんだったのです。色や数に限りのあるビーズで、どれだけ綺麗なものを作るかが、デザインセンスと腕の見せ所で…苦労もしたけれども、良いものが出来上がるととても嬉しかったです。」

最後に、ひとことどうぞ。

「プロムナードの 11 番街前で、私たち“ひまわり会”のメンバーがみなさんのお越しをお待ちしています。」　**【取材・文／浜田】**

綱引き大会　ミニコンサー

ベイタウンまつり 2000 で綱引き大会とミニコンサートを担当させて頂く 17 番街の柴崎と申します。

綱引きは、もちろんこの祭りの花形で、各番街の勇士が力を競います。

普段顔を合わせても、会社に急ぐお父さん達や、子育てに追われるお母さん達も、これを機会に心を一つに汗を流して頂ければ、最高のコミュニケーションの場となり得るでしょう。是非、たくさんのご参加、ご声援をお願い致します。

また、ミニコンサートは、初登場の企画です。幕張総合高校の生徒さんや、地元のアマチュアバンド、また、お隣の磯辺からも出演して頂きます。突然の企画なので、練習もままならず、失敗もあるでしょう。また、スタッフの不慣れな点や、限られた予算の為、音響機器にも不安がありますが、ステージ上で繰り広げられる熱演に、どうぞ心を躍らせてください。出演者の中には、ベイタウンの中年で結成したバンドもあります。お見逃し無く。

コミュニティ・コア「設計者と語る会」

４月２日（日）かるがも館でコミュニティ・コア研究会の主催により、コア「設計者と語る会」が開かれ、コア設計者である高谷時彦氏と企業庁幕張新都心建設課関係者ほか、住民 50 人あまりが出席し熱意あふれる会となりました。

高谷氏は香川県生まれで東大工学部都市工学科を卒業し、槙総合計画事務所で都市デザインをおこない、現在は（株）設計・計画 高谷時彦事務所を主宰している傍ら東大や神奈川大の講師や、新宿の景観アドバイザーなども 96 年から務めています。

この日の会合はコミュニティ・コアの基本設計者に選ばれた高谷氏に、コアに対して思っているイメージや考え方を聞くことを中心に進行されました。

高谷氏は、コアを①コアとは何か②ベイタウンの特性③プログラムの三つの複合とイメージしていると述べ、コアは、住民が寄りあっていろいろ行う場であるので、最低限必要なものだけでないプラス α を求めたい。イベントをしたり、できごとのおこりうる場としたい。またステージの上に上がった時の高揚感など、ふだんと少し違うハレの場をイメージしている。と言い、コア設計の基本的考え方をもっと詳しくお聞きしたいとの要望に対しては、説明は難しいが、ベイタウンに合うことが必要で、完全な沿道型でなく、従来型をミックスさせたようなものに トライし、きれいなロの字型にはならず一面はセンターガーデンを取り込んだ内向きの庭とし、緑を入れベイタウンの他の建物で実現できなかったことを入れ、高い位置から見たり、のぞいたりと外から見られてもかまわないような作り方、つまりそれぞれの施設運営をしながら、様子がうかがい知れるようにする。ホールについては予算との兼ね合いもあるが、生音重視の多目的ホールが望ましいと述べました。

このあと２回程度、説明会を行う予定ですが、次回開かれる基本設計説明会で変更希望が出た場合、時間的に変える余裕はあるのか？との質問に対しては、企業庁から余裕があれば対応したいの返事もありました。

コア研側からの注文としては、計画当初の構想にあった「幕張独自の文化を生み出す」という初心を忘れずにスピーディな事務作業を進めると共に、情報などをできる限りオープンにして住民と行政側が協力しあっていきたい。ということでした。

既存のものを壊してでも大胆なことが出来ないか？との質問に対しては、クリーンベルト構想に基ずく公園は、個人的見解としては、コンセプトに疑問を感じているので、センターガーデンに面する 12 番街、15 番街のコーナーの建物の処理が半円にえぐられた形にそろえられているので、この形とマッチングする建物をセンターガーデンに建て、アクアダクトパークから来るグリーンベルトの流れを思い切って５番街方向にターンさせ、５、６、11 番街の交差点方向に向かわせるダイナミックな考えもできる。とも発言しました。とは言っても全体のマスタープランの変更となるものや、法的に決められた都市緑地公園の申請手続きの変更などは、手続きに時間がかかるので難しい面もあるようです。

次回の説明会は６月頃を予定しています。

この記事はベイタウンネットに掲載されている福永さんの記事をもとに、金が構成しました。

街開き５周年企画「ベイタウンフォーラム」６月４日開催

ベイタウンフォーラム実行委員会（仮称）では街開きから５年が経つのを記念して、これまでの５年を振り返りつつ、これからの街づくりを考えるイベント「ベイタウンフォーラム」を６月４日（日）に、「公園東の街」中庭の集会所をメイン会場として開きます。全体は二部構成で、第１部では、計画立案を手がけたプランナーを中心に地域活動に携わる住民も交えて、ベイタウンの街づくりの過去５年を振り返り、第２部では、「イベント」「シニア・ライフ」「公園づくり」などテーマごとに分科会形式で、将来をにらんだ街づくりのあり方を探っていく予定です。第１部、第２部とも、企画の詳細はいま実行委員会を中心に検討中の段階。実行委員会からの案内をご覧のうえ、みなさん奮ってご参加ください。

ベイタウンの街づくりは、いわゆる「ベッドタウン」を生み出してきた郊外型ニュータウン開発の反省に立って、「住宅で都市をつくる」を理念に掲げたり、都市計画や建築の専門家らでデザインルールを決めて原則としてルールの範囲内で建物を設計するようにしたり、と計画・設計段階で新しい考え方を取り入れ、そして実践してきました。この段階を「第一ステージ」とするなら、人が現実に暮らし始めすでに５年が経過したいまは「第二ステージ」と言えましょう。経済環境の違いから計画どおりに事が運ばなくなっている点でも、街づくりを取り巻く事情は計画・設計段階と異なってきています。「第二ステージ」以降のシナリオをだれがどう描いていくのか――フォーラムの場を通じて考えていきませんか。

●企画責任者から

「街を思う気持ちを伝え合う器にしたい」

グランパティオス公園東の街　村岡 英裕さん

幕張ベイタウンは、95 年２月に街開きをしたわけですから、丸５年が経ったことになります。ぼくの持論があって、ヨーロッパでは 1989 年に、日本では 1995 年に 21 世紀が始まったと思っているのですが、期せずして、21 世紀の街「幕張ベイタウン」もこの年がメルクマークとなったわけです。

このフォーラムを考える上で、やはり５年という節目の年に、なにか記念的なことをやるべきではないかとの考えが先住民、新住民の間に湧いてきたということがあります。私個人は、昨年９月に移住してきたばかりですから、過去のことを知りたかったわけです。

それから、考えてみたら５月末には１万人が住む街になるということ。たとえば、スイスの観光地インタラーケンは１万 2000 人です。計画通り２万 6000 人の街ともなれば、これは立派な都市であり、そろそろ都市の風格というか、ベイタウンらしさのようなものが目指されてもいいかと思います。今はまだ街並みが目立つわけですが、人や街の活動によってこの街並みがもっと魅力的に見えるようになればいいなと考えます。音楽祭の街でもいいし、しょっちゅう議論のある街でもよいのです。フォーラムがそうしたベイタウンらしさをつくるきっかけの一つとしてお役に立てばと思います。

今回のフォーラムでは、過去５年を総括する第１部と、ベイタウンの現在と将来を考える第２部の分科会で話し合いが行われます。分科会では、国際的な手作り音楽祭の話、われわれの近い将来であるシニア・ライフの話、歩きながら考える公園の評価、国際的な視野を含めて考えるベイタウンのしつけの話、そしてベイタウン周辺との関わりかたの話などが自由参加の形で行われる予定です。ぜひ興味のある分科会に足を向けていただきたいと思います。

企業庁と建設会社の壮大な実験、都市計画の専門家たちの夢の試みに乗ってぼくらはベイタウンに住むことを決心したのですが、ぼくらの心の中にはきっと以前から「だれかのまち」ではなく、「ぼくらのまち」「わたしたちのまち」と呼びたい気持ちがどこかにあった気がしてなりません。そんな街がないかと探していたところに、まったくの更地に構想された 21 世紀の街づくりの夢が、きっと心に訴えたのでしょう。「コミュニティ活動」に無縁だと思っていた私がこうやって動き回っているのも、そんな気持ちからだと思います。

それぞれの人がそれぞれのやりかたで街を思っている。フォーラムがそうした気持ちを伝え合う器となれば、と考えます。

駅前アウトレットモール説明会開催

去る４月９日（日）に、海浜幕張駅前に建設中のアウトレットモールについての説明会が開催されました。記者も住民の一人として参加してきましたので、その概要をご報告します。

元々のこの説明会の主旨は、海浜公園から駅前に抜ける通路が工事により何回かに渡り変更されること（注：各番街の掲示板に掲示済み）の事業者側からの説明および協力依頼でしたが、参加者側の住民の関心は、アウトレットモールそのものの内容や、予想される交通問題に関してが主なものでした。事業者側（三井不動産千葉支店）も、住民の関心・興味に気持ちよく応えてくれたため、充実した情報交換・意見交換の場となりました。

施設の概要は、

- 国内最大級の 3500 坪の売り場面積をもつ、２階建てのショッピングモール。２階部分は、２箇所でプレナの“スカイウォーク”と接続される。
- 店舗数（予定）は約 60 。衣料、靴、雑貨、スポーツ・アウトドア用品などが中心。飲食店も２店舗（パスタ＆ケーキ、ジェラート）が入る予定。
- 営業時間は 10:00 ～ 20:00 。夏季など、一時的に 21:00 まで延長。飲食店は 23:00 まで。
- 用地は、企業庁からの 15 年間の貸与。契約期間後については、未定。
- オープンは 10 月下旬予定。

ということです。

基本コンセプトは、「アーバン・フラワー・ガーデン」。花をテーマにゾーニングされます。

駐車場は、隣接地に２階建て 420 台収納の立体駐車場を新設する他、近隣駐車場の整備・拡張で、現プレナ用駐車場と合わせて 1200 台分の駐車スペースが確保されます。

参加した住民からは、「駅前の美観維持を企業庁がリードしてマネジメントして欲しい。」「ベイタウンとの動線を（安全に）確保すべき。そのためには、海浜公園から“スカイウォーク”に直接入れるような立体橋が有効では？」「防犯対策を十分に考えて欲しい。」などの活発な要望・意見が出されました。

今回の説明会で印象的だったのは、参加者が今までのこの種の集会で見なれた「常連」だけではなく、新しい顔がかなり増えていたことです。　【板東】

アウトレットモールパース図（提供：三井不動産）

B-Information

海浜幕張駅自転車駐車場の利用案内

海浜幕張駅周辺の自転車駐車場については、４月１日付で、千葉県企業庁より移管をうけ、市で管理する自転車駐車場となりました。

つきましては、７月１日（土）より指定自転車駐車場として、有料となりますので、利用申し込み手続きをされてからご利用下さい。

申し込みに関する内容については、５月 15 日号の市政だより（全市版）をご覧ください。　　**問い合わせ先：千葉市交通安全課　Tel:043-245-5149**

BAYTOWN-NET の URL 変更（BAYTOWN-NET よりのお知らせ）

４月 14 日未明より BAYTOWN-NET の主要コンテンツを担当する Web サーバーの故障により従来の URL がアクセス不能となりました。そのため現在 URL を ***http://210.136.152.53/baytown/*** に引っ越して運営をしています。ご利用いただいている皆様には、ご迷惑とご心配をおかけしたことを運営スタッフ一同お詫び申し上げます。

また、BAYTOWN-NET は、５月上旬を目標に ***baytown-net.com*** として生まれ変わります。今後もより一層の BAYTOWN-NET へのご支援をお願い申し上げます。

シニアクラブ設立

「楽しいふれあいを見つけませんか?」という、シニアクラブ設立委員・民生委員の呼びかけで、４月 22 日 (土)8 番街集会室にて「シニアクラブ結成の集い」が開かれました。当日の出席者は男性 44 名 (加入者は 42 名) 女性 34 名 (加入者 32 名) の計 78 名でした。シニアクラブのこれからの活動には、６月の健康ウォーク、９月の敬老会、11 月の旅行会などが計画されています。「幅広く自由な活動をしたいので、60 歳以上のかたはもちろん、60 歳以下のかたの加入もお待ちしています。他の街にはないベイタウンらしいシニアクラブを、一緒につくっていきましょう。」というのが、役員のみなさんの思いです。

【会費:年間 1,200 円 (月 100 円)　連絡先:#8 砂原　211-6341】

去る４月 15 日、**「千葉県企業庁、千賀さんを送る会」**がエコパークを作る会の主宰で行われた。千賀氏は県企業庁でこの２年間幕張ベイタウンの街作りに携わり、その住民との対話を重視した街作りの姿勢は多くのベイタウン住民から高く評価されていた。県職員である千賀氏の離任を住民が送別会を催して送るなどは異例のことであるが、これもベイタウンらしいことである。

千賀氏のベイタウンの街作りに見せた手法は、三井不動産発行の「こんにちは」５月号にも、住民との対話で進める街作りを支える行政マンとして紹介され、事業者からの信頼の厚さも覗かせている。

幕張ベイタウンには多くの優れた人材が集い「卒業」して行く、新しい街作りの文化を伝えるために。　【松】

ベイタウンニュース取材記者募集

ベイタウンニュースでは、５月 13 日開催のベイタウン祭と６月４日のベイタウン･フォーラムの取材を担当する記者／カメラマンを募集しています。また、誌面を彩るイラストを描くイラストレーターも同時に募集します。

我こそはと思う方は、リンコス・ファミリマート・ヤンマー・ヤマザキに備え付けの投書箱か編集委員宛に電話・FAX・E-Mail を利用して応募して下さい。

今月号は誌面の都合で編集後記は休みますが、新聞紙上をにぎわした石原東京都知事の愚言は、風化や看過させてはいけない大切な問題と感じたので、あえて発言します。都知事はその発言において「不法入国した外国人」と前提しましたが、もともと差別的・排他的な考えを表明している人物だけに、意図的な発言である事は明らかです。ベイタウンでの日常生活で、私自身は自分が外国人であることを意識した事がないだけに、彼の差別的な言葉に深く胸を痛めました。

私の場合、日本の良心と美しい自然、そしてベイタウンを愛しているのでここに定住していますが、その想いが必ずしもイコール（たとえば C･W･ニコル氏のように日本人になるということ）ではないので、石原知事発言の根底には異なる文化を尊重せず、日本人以外のものを排他するようなところに問題があると感じました。

日本が豊かになり海外旅行に出かける人々が増えるのと同様に、海外からもいろいろな理由で人が入ってきます。先進国からの人の流入は歓迎するが、開発途上国からの人々は排斥するという考え方は危険です。日本が貧しかった時代はそう昔のことではないし、貧しかった時代の日本が多くの国に助けられ豊かになった事実を忘れてはならないと思います。公的な立場をわきまえない一人の発言のために、日本人の良識が傷ついたことが残念でなりません。

実は千葉県と千葉市も、地元に成田空港や幕張メッセをかかえ、ベイタウンにインターナショナルスクールを誘致しようとしたほど国際都市を標榜していますが、行政の外国人採用に関しては全国ワースト３に入っている後進地域です。

ベイタウンには多くの外国人が住み、ジャイ･ネパールに人々が集い、そして外国帰りの人たちが海外の生活様式を取り入れて暮らしています。

国際色とは、特別なことをして作り上げてゆくものではなく、ベイタウンのように身近な日常にあたりまえにあるところに本当の価値を感じます。

編集後記に代えて、金一剛筆

都市公団

『花物語』プロジェクト（アーバニア志賀公園（名古屋市））

暫定施設として青苗畑･クラブハウス･温室等を持つ公団賃貸住宅です。園芸アドバイザーによるガーデニング講座や園芸相談が開かれ、みなさんでバルコニーや窓辺を飾る草花を育てています。名古屋市「緑と花の協定」制度により花苗の支給を受けるなど、コニュニティの自立的な活動が活発になっています。

賃貸住宅のお問い合わせは
　総合募集センター津田沼案内所　　TEL:047-478-3711
公団住宅の駐車場のお問い合わせは
　日本総合住生活（株）千葉支店　　TEL:043-277-7371

ベイタウン WHO’S WHO　第４回
上杉 敬郎さん（16 番街在住）

この６月、セントラルパーク・ウエストの一角、マリーンデッキへの登り口近くに、「ローズベイハーツ」という名のカフェレストランがオープンします。経営するのは、16 番街に住む上杉敬郎さん（49 歳）。この２月、大学卒業以来勤めてきた建設会社を退社して、３月には、レストラン経営などを手がける新しい会社を立ち上げたばかりです。会社との間を往復するサラリーマン生活に終止符を打ち、「家族と地域で暮らしていくこと」を決断した上杉さん。「ベイタウンに住んでいなかったら、会社を辞めなかったと思う」と振り返ります。地域を基盤とする「コミュニティビジネス」が 21 世紀型の産業と言われる時代なだけに、上杉さんの決断のウラにどんな思いがあったのか、気になるところです。　（茂木）

「学生時代に『サラリーマンにはなりたくない』という歌を作ったことがありました。たぶんサラリーマンになるだろうから、どっぷりつかりたくない、との気持ちの現れだったんでしょう」

絵を描くのが好きな上杉さんは大学でデザインを学び、建設会社に入ってからは建築設計を手がけてきました。しかし、年功序列制の崩れる中で処遇は次第にきつくなります。そんなある日、会社の同僚とラーメン屋に昼食をとりに入って目にしたのは、店のおじいさんがフライパンで元気よく調理している姿でした。「これだよ、このおじいちゃんには定年なんかない。元気である以上、終生現役じゃないか」。そう言い合ったそうです。

「アメリカの映画やドラマを見て、かれらのように家庭の中で生きていくことにあこがれをもってました。虚像かもしれないけど、なんで日本はそうならないのかな、と思ってました」

「家族と暮らしていきたい」との思いは、小さいころからの米国へのあこがれを基礎としています。横浜生まれの上杉さんにとって心に刻み込まれている風景とは、高台から見えた横浜港の外国汽船。本牧あたりの光景も、豊かさを感じさせるものとして印象に残っていると言います。「これからどうやって生きていくかをカミさんと考える、そんなことこれまではなかった」―あこがれの暮らし方に一歩近づいた、実感のこもった言葉です。

「まだ発展途上の街なので、この街の色を自分でつけていける。ただ、ボランティアでは限度がある。街づくりにとって、地域に根を生やして、職住近接を実践することも大事なのでは」

ベイタウンに来るまで住んでいたところでは、上杉さんは多くのサラリーマンと同じように「お客さん」にすぎなかったと言います。地域との接点はお子さんだけ。でも、「中学校にあがるようになると、それもなくなってしまう。一過性のものでした」。インターネットやコミュニティコア研究会を通じて、みずから地域とかかわり始めた上杉さんが「この街で暮らしていこう」と決めたのは、ベイタウンができあがってしまった街ではなく、まだまだこれからの街であることも深く関係しています。

「ベイタウンには、特化した個性や知識をもった人や、いろんな職業の人がいます。そういう人たちを巻き込んで仕事にできたら、と思ってます。起業することも街づくりでしょ」

ベイタウンをビジネスの拠点にしていく―。新しい産業として「コミュニティビジネス」の可能性が指摘されているいま、なんとも元気の出る話です。「『幕張』は磨けば光る原石。横浜、神戸にも決してひけをとりません。これからどういう個性を出していくのか、原石を磨く側に回ります」。

シリーズ番街紹介　第３回　『グランパティオス公園西の街』

シリーズの第３回目は、新しい街区を代表して、グランパティオス公園西の街です（ネットでは、通称 GPW と表記されることが多いようです）。自治組織立上げに尽力されている、福室さんに紹介してもらいます。

打瀬２丁目公園の前に、空を鋭角に切り取った様にたたずむのがグランパティオス公園西の街です。１番館、２番館はブルーとグレー、３番館、４番館はイエローとホワイト。目立つ色合いということもあって、メッセやホテル街、海浜幕張駅などからベイタウン方向を望むと最初に目に入ってくる街区です。

公園西の街は、免震構造を持つ１番館から５番館までの建物が広大なパティオを「コの字」型に囲み、パティオの地下には自走式駐車場が２層に配置されています。人工地盤上のパティオには「じゃぶじゃぶ池」が設けられ、夏には水遊びをする元気な子ども達の声がこだまします。（５番館は来春竣工予定）

昨年３月に１番館、２番館の約 120 戸が入居し、新しい生活がスタート。12 月にはクリスマスパーティーを開き、おおいに盛り上がりました。そして、この３月末からは３番館、４番館の本格入居で約 300 戸、1000 人近い大所帯になりました。パティオス先輩街区に比べて若い住人が多いのが特徴です。

ゴールデンウィークには、３番館、４番館入居歓迎企画として、子ども達の手作り鯉のぼりを中庭いっぱいに泳がせるという壮大なイベントと、歓迎ビールパーティを計画しています。どのくらいの鯉のぼりが集まるか楽しみです。

今年の２月には自治会設立準備委員会が発足。管理組合の支援をいただきながら、６月の正式設立を目指し活動を行っています。準備委員会では、広報誌「ぐらんぱ」の発行や、先にご紹介した歓迎イベントなどを通して、安全で明るく楽しい街にして行きたいと考えています。

大きく、若いグランパティオス公園西の街をベイタウンの新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

きょういくベイタウン

第 13 号

ベイタウンニュース Vol.36 別版

今年度もよろしくお願いいたします。

打瀬中学校

４月５日に始業式、翌６日に 98 名の新入生を迎えての入学式が行われました。その頃は桜が見事に咲いておりましたが、いつの間にか木々の緑の美しい季節となりました。新しい平成 12 年度もスタートして早や１ヶ月が経ちました。

５月１日現在、本校は１年生が 98 名で３学級、２年生は 86 名の３学級、そして、３年生が 77 名の２学級です。全校生徒数 261 名、学級数は８学級の規模となりました。昨年度に比べ２学級増えましたので、教職員数は非常勤職員４名を加えて 23 名です。

ここ数年来、教育改革に関する様々な取り組みがなされてきておりますが、今年は学校にとって大きな意味をもつ年です。と申しますのは、２年後の西暦 2002 年（平成 14 年度）から、学校は完全週５日制となり、新しい学習指導要領に則っての教育課程が完全実施される事となります。そのための移行措置として、幾つかのことが今年度から始まります。

本校では、その一つとして、教科および道徳・特別活動といった学習の他に、新たに「総合的な学習の時間」を設けました。この時間に期待されることとして、「自ら学び、自ら考えるなど、『生きる力』を育むこと」、「問題解決にむけての主体的、創造的な態度の育成」、「自己の生き方について考えることができるようにすること」などが挙げられております。各学校の実態に応じて、学校ごとに創意工夫ができる時間であり、特色のある学校づくりには欠く事のできない時間となります。

この「総合的な学習の時間」の実施に先駆けて、昨年度は保護者並びに地域の皆様方のご協力をいただき「Ａ・Ｓ講座」を開講いたしました。今年度は、これを更に発展させた形で取り組むことを考えております。保護者や地域の皆様に先生になっていただき、本校生徒の指導に当たっていただきたいと思っております。大変なお骨折りをおかけいたしますが、今年度も本校教育につきまして、皆様のご理解・ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

掘米先生

３人の新しい先生をお迎えしました。

新しく来られた太田秀樹教頭先生は市内犢橋中学校から、堀米宏先生、北川裕子先生のお二人はいずれも市内緑が丘中学校からです。

太田教頭先生は早速、地域の会合に参加したり，夜遅くまで学校に残って仕事をされています。堀米先生と北川先生は１年生の学級担任として豊富な経験を生かし，まだひと月ほどですが，ベテランとしてもうすっかり打瀬のリズムで頑張っています。

北川先生

@Space

テニス【軟式】

今月の部活動の公式試合の結果をお知らせします。
千葉市少年少女春季団体戦
会場：青葉の森スポーツプラザ
４月８日（土）男子

準々決勝	打瀬	３－０	生浜
準決勝	打瀬	２－１	さつきが丘
決勝	打瀬	２－０	磯辺一中

優勝　　県大会へ

４月９日（日）女子

２回戦	打瀬	３－０	有吉
３回戦	打瀬	２－１	犢橋
準々決勝	打瀬	０－２	松が丘

ベスト８

男女とも日頃の練習の成果を十分発揮することができました。３年生最後の総体に向け，さらに頑張りたい。（顧問談）

サッカー

ジュニアコース春季大会
会場：高洲一中
４月１６日（日）

打瀬	前半	１－１	土気南
	後半	０－０	
	ＰＫ１－３で敗れる。		

大変惜しい試合でした。チームワークを大切に真面目に練習しているので，夏の総体でこの悔しさを晴らしてほしいと期待しています。（顧問談）

ＡＳ講座の講師募集　　打瀬中学校ＡＳ講座準備事務局（仮称）より

打瀬中学校のＡＳ（After School）講座の講師を募集します。ＡＳ講座は中学校の子供たちに「地域での教育」の観点から、地域住民にご自分の趣味や専門分野、あるいは体験談などで講座を開催していただくものです。昨年より開始され、昨年は２回の講座がおこなわれました。

昨年度行われた講座の内容は、グランドゴルフ、自分史、戦争体験、竹トンボづくり、元零戦パイロットの大空への思い、クラシック音楽、携帯電話の今後、生け花、ストリートダンスなどなど、決して専門分野ばかりでなく、趣味や体験で構成されています。

参加する生徒は、１講座当たり、５人から３０人とまちまちです、また、場所も普通の教室や家庭科室、体育館やグランド、ある講座は和室で膝を交えてというものもありました。

講座の目的は、専門分野の知識を高め教科的な能力を育成するものではなく、地域住民と中学生の交流を活発にし、同時に中学校と住民で地域での教育を行うことを主眼にしたものですから、深い内容や資格の必要はありません。気軽に中学生に語りかけるという切り口で参加いただければ結構です。

今年は年間計画として
第１回：５／３１（水曜日）１：３０～４：００（延長可）
第２回：６／２８（水曜日）１：３０～４：００（延長可）
第３回：９／２７（水曜日）１：３０～４：００（延長可）
第４回：１１／２９（水曜日）１：３０～４：００（延長可）
の４回を予定しています。全４回を行う必要はなく、単発的にできる日程で開催していただくことも結構です。また、講座内容を何回かに分けて、継続的に内容を深めるという講座にすることも可能です。

中学校および事務局では、この講座が契機となり、生徒達の自由研究や総合学習のテーマがこの中から生まれ、夏休みや休日に地域住民に指導をいただく、そんな関係が生まれればいいという夢を持っています。

詳しいことは事務局：松村（パティオス #10-612　TEL;043-211-6853　E-MAIL；m-matz@mxq.mesh.ne.jp）または山北（パティオス５番街　TEL;211-0645）までお問い合わせください。